

デザイン思考で切り拓く地域の未来

千葉大学による長柄町の地方創生

千葉大学大学院准教授
長柄町タウンアドバイザー
田島 翔太

講師紹介

専門

地域デザイン、地域起業、建築学(環境)

兼務

千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス国際連携部門長

千葉大学学術研究・イノベーション推進機構 (IMO) 准教授

千葉大学アントレプレナーシップセンター准教授

株式会社ミライノラボ代表取締役

稲毛コレクティブインパクト代表幹事



田島翔太

千葉大学大学院

国際学術研究院准教授

長柄町タウンアドバイザー

私の役割

大学の「知」と若者の「発想力」を地域に導入し、行政、企業、住民、大学をつなぐ触媒。

2017年～2024年まで長柄町在住の経験

千葉県長生郡長柄町について

長柄町の現状

県内2番目の小規模な町（人口約6,100人）

主要な課題

- 長期的な人口減少、高齢化
- 一次産業の高齢化、後継者不足
- 公共交通の衰退
- 災害への脆弱性（備えの必要性）



千葉大学と長柄町の連携の経緯

連携の経緯

2015
年

COC+

地方創生に係る連携協定の締結

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
大学による産業振興・雇用創出
CCRC (生涯活躍のまち) 実現に向けた3社協定

2018
年

OPERA

健康まちづくりのオープンイノベーション事業採択

国による産官学連携体制のバックアップ

長柄町版大学連携型生涯活躍のまち

ビジョン

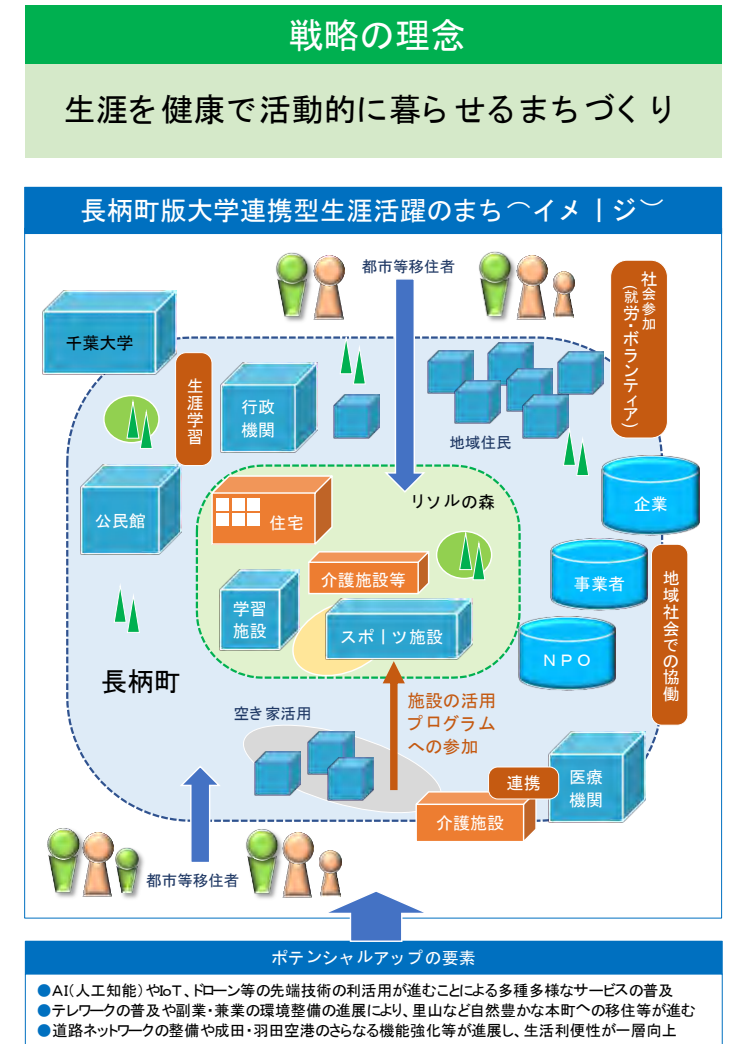
「暮らしているだけで、健康になるまち」の実現

特徴

エリア型CCRC(リソルの森)とタウン型CCRC



リソルの森



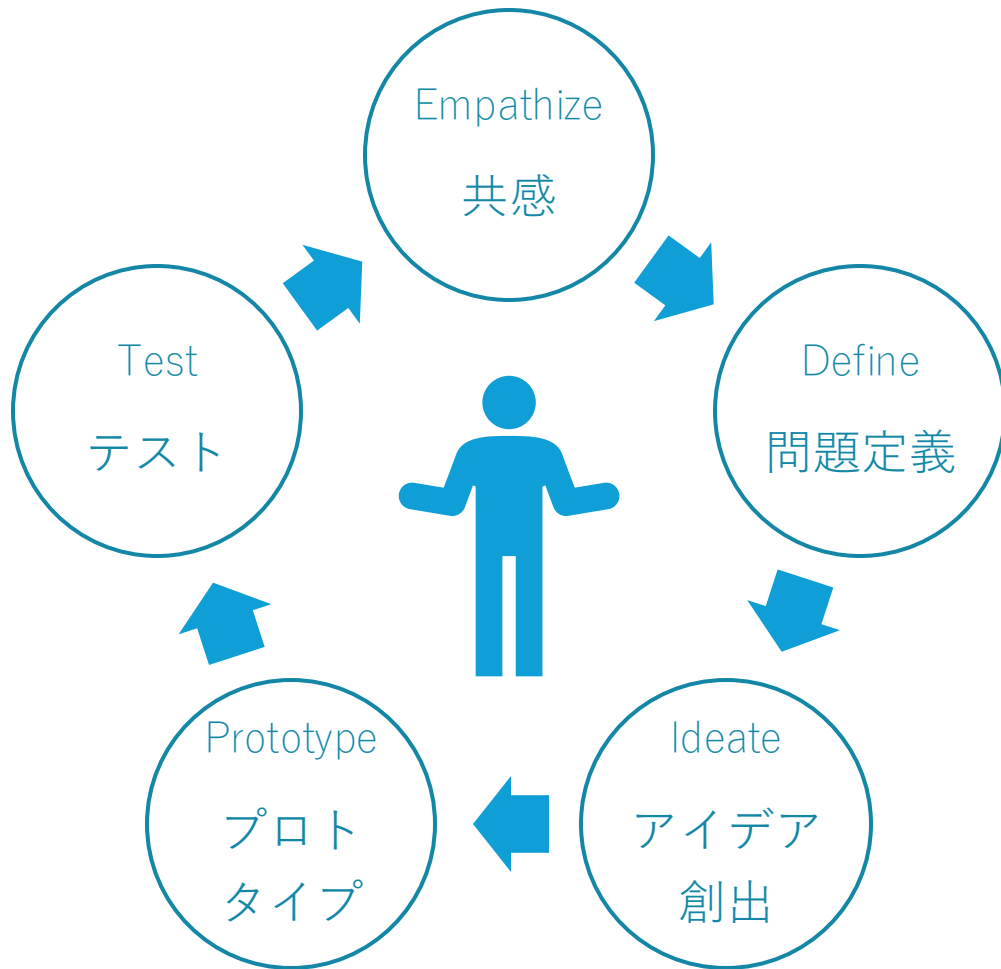
地方創生の手法「デザイン思考」の活用

デザイン思考 (Design Thinking)

社会の複雑な問題に対処するための、
「人間中心の原則」に基づいた問題解決法

5つのフェーズ

- 共感/観察：住民のニーズを深く理解する
- 問題定義：潜在的な課題を住民視点で明確化する
- アイデア創出：創造的に新たな発想を生む
- 試作：まずは小さく形にし、迅速に試す
- テスト：現場で実践しフィードバックで改善する



ウェルネストラック



デザイン思考の適用

1. 共感/問題定義：歩きたくなるモチベーション不足
2. アイデア創出：データと自然の価値を組み合わせる
3. 試作：エリア型CCRCを周回するトラック

成果と特徴

1. 情報の可視化：距離、カロリー、メッツ、NDVI
2. 身体活動の増加とウェルビーイングの向上
3. 他地域への展開：松戸・常盤平団地

特産飲料「ながらとガラナいろはにほへと」



デザイン思考の適用

1. 共感/問題定義：町の知名度不足、特産品の不在
2. アイデア創出：インパクトのあるネーミングとPR
3. 試作：SNSで1,000件のフィードバックを集め、商品化

成果と特徴

1. 販売網：JR50店舗・自販機などで販売。知名度が向上
2. 利益還元スキーム：販売者は町、利益は観光協会

自家発電キャビン「エコキャビン」

デザイン思考の適用

1. 共感/問題定義：災害時の電力供給と共助。インフラ維持
2. アイデア創出：「インフラそのものを移動させる」
3. 試作：自家発電式の小型トレーラーハウス

成果と特徴

1. 平時の活用：コミュニティ拠点としてのカフェ運営
2. 地域データ収集：電力、来訪者の「見える化」
→地域介入によるコミュニティインパクト調査



これまでの地方創生の成果

定量的成果

1. 移住定住：空き家バンクを通じた移住44名。エリア型人口の増加
2. 経済効果：「ながらとガラナ」の利益還元（観光協会）
3. コミュニティ創出：「オヒサマコーヒー」の定期開催、認知度向上

定性的成果

1. 住民協働：住民によるまちおこし組織の発足
2. 地域内連携：特産品開発をきっかけとした企業間取引
3. 人材育成：千葉大生による国際交流やインターンの継続

今後の展望と地方創生への示唆

今後の展望

1. データ活用：RESAS、データ取得、EBPMの重要性
2. 継続的な連携：学生と町とのつながりの継続・発展に期待

地方創生への示唆

1. デザイン思考と行政：真のニーズにもとづく施策立案
2. 大学の「知」とエネルギー：低コストで斬新な企画力・実行力
3. 産官学民が自走するエコシステム：利益や活動が次につながる仕組み